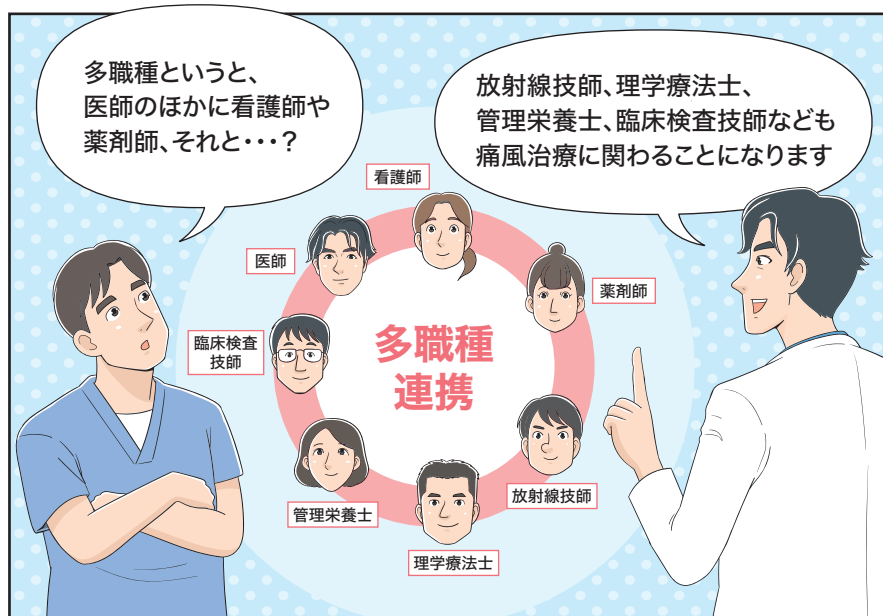
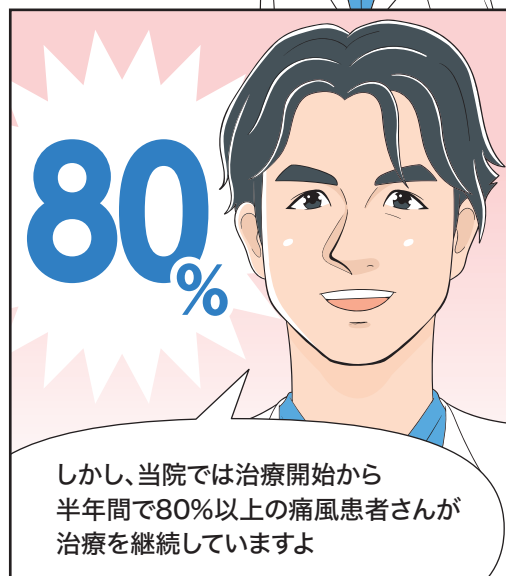


マンガで学ぼう

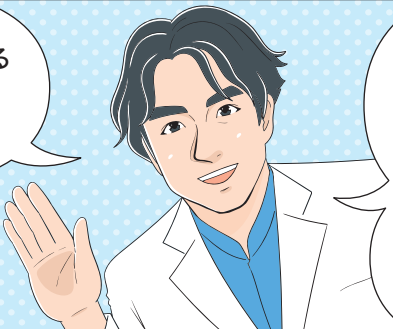
#03 | 治療継続が重要

監修：嶋田 英敬 先生 (医療法人社団如水会 嶋田病院 理事長)



では、当院における多職種による「痛風クリニカルパス」について紹介したいと思います

まず、初診時に1泊2日の検査入院で蓄尿検査を行います



ここでは、臨床検査技師による画像検査、看護師による療養指導、薬剤師による服薬指導、理学療法士による運動指導、管理栄養士による栄養指導などが実施されます

経過観察中も、尿酸降下薬の効果を確認しながら多職種によるさまざまな療養指導を行っています

嶋田病院 痛風クリニカルパスと多職種連携

経過	初診	検査		尿酸降下薬開始	投薬量の調整	尿酸値安定後
		1日目	2日目			
診察	・問診 ・診察 	・服薬チェック・指導		診察 診断・治療方針の説明	・問診 ・診察(毎月) 	・問診 ・診察(2~3ヵ月おき)
検査	・採尿 ・採血 ・関節エコー	・24時間蓄尿 ・採血 ・胸部X線 ・腹部エコー ・FMD ・InBody 他 			・採尿 ・採血 	・採尿 ・採血 ・関節エコー
治療	鎮痛剤 コルヒチン			尿酸降下薬開始		服薬継続指導 
説明指導	・初診時用パンフレットによる説明 ・検査内容の説明	・栄養指導 ・運動指導 		・医師からの説明を確認 ・「薬と一生のおつきあい」のパンフレットを用いた説明 ・今後の流れの確認	・治療開始後の状態確認 ・前回指導内容の確認(発作の対応や治療継続の必要性)	・尿アルカリ化 ・夏場の水分摂取について ・運動指導 ・栄養指導

看護師

理学療法士

薬剤師

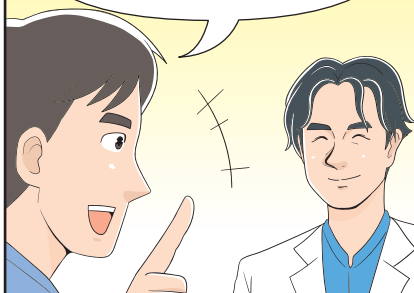
放射線技師

管理栄養士

臨床検査技師

医師

なるほど、ここまでさまざまな医療スタッフが関わると、患者さんも安易に治療の中断はできませんね



また、多職種連携を円滑に進めるためには、いくつかの重要なポイントがあります

より良い患者サービスを提供するには、「イトコ」と呼ばれる3つの要素—インセンティブ(動機)、トラスト(信用)、コネクタ(繋がり)—を理解し、意識して連携することが大切です※1

これらを踏まえることで、縦割りになりがちな職種の壁を越えて、緩やかな繋がりが横串を通すことになります。その結果、Peer to Peer (P2P) 型の多職種連携プラットフォームが効果的に機能するようになります※1,2



イトコ

インセンティブ
(動機)

 トラスト
(信用)

 コネクタ
(繋がり)

※1 星合隆成, つながりを科学する 地域コミュニティブランド, 東京: 木楽舎; 2018.

※2 Peerは「対等な立場の仲間」を意味し、P2P型とは各専門職が上下関係なく対等な立場で直接繋がり、情報共有、意思決定、協働できるシステムを活用した連携を示します。

なるほど！このポイントを押さえれば、効果的な多職種連携ができそうですね！！

明日からの痛風診療の参考とさせていただきます！

